

**Oracle® Business Activity Monitoring**

管理者ガイド

10g (10.1.3.1.0)

部品番号 : B31881-01

2007 年 1 月

Oracle Business Activity Monitoring 管理者ガイド, 10g (10.1.3.1.0)

部品番号 : B31881-01

原本名 : Oracle Business Activity Monitoring Administrator's Guide, 10g (10.1.3.1.0)

原本部品番号 : B28991-01

Copyright © 2002, 2006, Oracle. All rights reserved.

#### 制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記載された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性がありま。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

---

---

# 目次

<b>はじめに</b> .....	iii
対象読者 .....	iv
ドキュメントのアクセシビリティについて .....	iv
関連ドキュメント .....	iv
表記規則 .....	v
サポートおよびサービス .....	v
<b>新機能</b> .....	vii
リリース 10.1.3.1.0 の新機能 .....	viii
<b>1 概要</b> .....	
Administrator へのアクセス .....	1-2
機能およびコンポーネント .....	1-2
機能 .....	1-2
コンポーネント .....	1-3
<b>2 サービスの実行</b> .....	
サービスの概要 .....	2-2
サービスの起動および停止 .....	2-2
スタート・メニュー・アイコンを使用したサービスの起動および停止 .....	2-2
コマンドライン・インタフェースを使用したサービスの起動および停止 .....	2-3
<b>3 ユーザー・アカウントの管理</b> .....	
ユーザー・アカウントの作成 .....	3-2
ユーザー・アカウントの編集 .....	3-2
オブジェクトの所有権の再割当て .....	3-3
<b>4 ロールの管理</b> .....	
ロールの理解 .....	4-2
ロールの作成 .....	4-2
ロールの変更 .....	4-3
<b>5 Message Center の構成</b> .....	
Message Center の概要 .....	5-2
Message Center の構成 .....	5-2

## 6 配信リストの管理

配信リストの作成 .....	6-2
配信リストの編集 .....	6-2
配信リストの削除 .....	6-2

## 7 エンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプの管理

エンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプの作成 .....	7-2
エンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプの編集 .....	7-2
エンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプの削除 .....	7-3

## 8 外部データ・ソース・タイプの管理

外部データ・ソース・タイプの作成 .....	8-2
外部データ・ソース・タイプの編集 .....	8-2
外部データ・ソース・タイプの削除 .....	8-2

## 9 プラン・モニターの管理

プラン・モニターの概要 .....	9-2
Plan Monitor Service のステータスの表示 .....	9-2
監視対象プランのステータスの表示 .....	9-2
プランの設定の変更 .....	9-3
Data Flow Service のステータスの表示 .....	9-4
実行中のプランの停止 .....	9-4
プランの設定確認のリクエスト .....	9-4
プラン・モニター・ジャーナルの表示 .....	9-5
プラン・モニター用のアラートの作成 .....	9-5

## 用語集

## 索引

---

---

# はじめに

ここでは、このマニュアルの使用方法について説明します。内容は次のとおりです。

- 対象読者
- ドキュメントのアクセシビリティについて
- 関連ドキュメント
- 表記規則
- サポートおよびサービス

## 対象読者

このマニュアルは、Oracle Business Activity Monitoring でユーザー管理、メッセージ管理およびプランの監視を担当するシステム管理者を対象にしています。システム管理者は、Administrator アプリケーションを使用して、ロールおよびセキュリティ・レベルの管理、Message Center の管理、および Active Data Cache にデータをロードするプランの監視を行います。

## ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

### ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし JAWS は括弧だけの行を読まない場合があります。

### 外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

### Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800) 446-2398 にお電話ください。

## 関連ドキュメント

詳細は、Oracle Business Activity Monitoring リリース 10g のドキュメント・セットにある次のマニュアルを参照してください。

- 『Oracle Business Activity Monitoring インストラクション・ガイド』
- 『Oracle Business Activity Monitoring Architect ユーザーズ・ガイド』
- 『Oracle Business Activity Monitoring Active Studio ユーザーズ・ガイド』

# 表記規則

このマニュアルでは、次の表記規則を使用しています。

規則	意味
太字	太字は、処理に関連付けられた Graphical User Interface 要素、あるいは本文中または用語集で定義されている用語を示します。
イタリック体	イタリック体は、特定の値を入力する必要があるプレースホルダや変数を示します。
固定幅フォント	固定幅フォントは、段落内のコマンド、URL、例の中のコード、画面に表示されるテキスト、またはユーザーが入力するテキストを示します。

## サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

### Oracle サポート・サービス

オラクル製品サポートの購入方法、および Oracle サポート・サービスへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

### 製品マニュアル

製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

### 研修およびトレーニング

研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

<http://www.oracle.co.jp/education/>

### その他の情報

オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.co.jp>

<http://otn.oracle.co.jp>

---

**注意：** ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

---





---

# 新機能

ここでは、リリース 10.1.3.1.0 の新機能について説明します。

## リリース 10.1.3.1.0 の新機能

リリース 10.1.3.1.0 には、次の新機能があります。

- **BPEL とのセンサー統合**

Oracle BPEL Process Manager でセンサー・アクションを作成し、センサー・データを Oracle Business Activity Monitoring Server のデータ・オブジェクトとしてパブリッシュできます。詳細は、『Oracle BPEL Process Manager 開発者ガイド』を参照してください。

- **リスト・ビューでの HTML 計算**

レポート内の計算用フィールドに HTML タグを追加し、そのフィールドに特別な書式を追加できます。詳細は、『Oracle Business Activity Monitoring Active Studio ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

- **Active Viewer の National Language Support**

Active Viewer に表示される言語と数値書式は、Active Viewer がインストールされているシステムに対応した適切な書式になります。詳細は、『Oracle Business Activity Monitoring インストレーション・ガイド』を参照してください。

- **インストール・プロセスの簡素化**

Oracle Business Activity Monitoring のインストールが簡単になりました。InstallShield ウィザードの指示に従いながら各手順を進めることで、ホストに必要なものをすべてインストールできます。詳細は、『Oracle Business Activity Monitoring インストレーション・ガイド』を参照してください。

# 1

---

## 概要

この章では、Oracle Business Activity Monitoring の機能とコンポーネント、および Administrator アプリケーションにアクセスする方法について説明します。

内容は次のとおりです。

- [Administrator へのアクセス](#)
- [機能およびコンポーネント](#)

## Administrator へのアクセス

通常、Web アプリケーションの起動には、スタート・ページを使用します。アプリケーションへの URL を直接使用して、Web アプリケーションを起動しないでください。これによって、キャッシングが正常に動作するようになります。また、URL では、ホスト名かわりに localhost を使用しないでください。

Administrator にアクセスするには、次の手順を実行します。

1. Microsoft Internet Explorer で、`http://<host>:<http_port>/oraclebam` に移動します。`host` は、Oracle Business Activity Monitoring がインストールされているサーバーの名前です。  
スタート・ページが開きます。
2. 「Administrator」をクリックします。  
別のブラウザ・ウィンドウに Administrator が起動されます。

## 機能およびコンポーネント

この項では、Oracle Business Activity Monitoring の機能およびコンポーネントについて説明します。

### 機能

Oracle Business Activity Monitoring には、次の機能があります。

**アクティブ・データ・アーキテクチャ** : Oracle Business Activity Monitoring では、プロセスのすべてのステップでリアルタイム・データをエンド・ユーザーに動的に移動するアクティブ・データ・アーキテクチャが提供されています。このソリューションでは、データの収集、変更が監視されるように設計されたルールの適用およびユーザーへのレポート内の情報の配信がアクティブに実行されます。

**リアルタイム・レポート** : 現在のデータが含まれているリアルタイム・レポートは、データが変更されるとすぐに配信されます。これは、Active Data Cache にデータが格納され、リアルタイム・トランザクション・フィードに接続されていることで可能になっています。

**レポート内のアクティブ・プレゼンテーション** : レポートには、データが継続的に更新、書式設定および表示されるアクティブ・データ・プレゼンテーションが表示されます。データが変更されると、表示がリアルタイムで変更されます。

**インスタント・アラート** : アラートは、ルールおよびリアルタイムに発生するイベントに基づいて電子メールで配信されます。

**ルールベースのアクティブ配信** : イベント・ドリブンのソリューションでは、ユーザー自身が情報の問合せを行う必要はなく、情報によってターゲット・ユーザーが検出されます。これらのレポートは、データの変更またはイベントのトリガーに基づいてエンド・ユーザーに配信されるように初期設計されています。エンド・ユーザーには、常に関連性のあるゼロ・クリック・レポートとして結果が表示されます。

**高パフォーマンスのスケーラブル・アーキテクチャ** : Oracle Business Activity Monitoring は、スケーラブルであるため、大量の複雑なリアルタイム・エンタープライズ・データを処理できます。Enterprise Link では、データ・フロー・テクノロジーを使用して、正しい RAW データが選択および変換され、データ設計者が必要とする計算が実行されます。変換されたデータは、高速にアクセスできるように、すぐに使用できる状態で Active Data Cache に配信されます。

## コンポーネント

Oracle Business Activity Monitoring には、次のアーキテクチャ・コンポーネントおよびアプリケーションが含まれています。

**Active Data Cache:** リアルタイム・ソリューションで大量のデータを処理できるように設計および最適化されています。データをそのままアクセスまたは配信できるようにするため、データのリアルタイム・ビューが保持されます。Active Data Cache へのデータ・フィードは、ビジネス・データ・ソース（データ・ウェアハウス情報、トランザクション・フィードなど）とその他のエンタープライズ・ソースが組み合わされたものです。データ変更が発生すると、Enterprise Link によって、連続的なストリームで Active Data Cache にこの情報が送信されます。

**Enterprise Link:** メッセージ・キューを使用して、Oracle Business Activity Monitoring をリアルタイム・データに接続します。また、データベース・サーバー、フラット・ファイル、XML ソースなどの情報ソースにも接続します。

**Event Engine:** 複雑なデータ条件の監視および指定したルールの実装を行います。ルールには、イベントに関連付けられている一連の条件およびアクションが含まれています。Event Engine は、特定の条件に関して Active Data Cache 内の情報を継続して監視し、関連付けられているルールに定義されている関連アクションを実行します。

**Report Engine:** ブラウザでの表示用に Active Data Cache から取得されたデータ・セットにレポート定義を適用します。レポートの表示および印刷のための情報のページングを管理します。レポートは、作成後、毎回レポート作成が繰り返されないように Active Data Cache に格納されます。ほとんどのレポート・ビューは、データ変更をリアルタイムでアクティブにライブで表示できるように設計されています。

**Active Viewer:** レポート表示用の Thin ユーザー・インタフェースです。Active Messenger は、クライアント側の通知ソフトウェアです。新しい情報が使用可能になると、ユーザーは、その情報へのリンクが含まれている電子メールを受信します。そのリンクをクリックすると、Active Viewer にレポートが表示されます。レポート形式には、グラフ、リスト、KPI、クロス集計、スプレッドシートなどがあります。

**Active Studio:** パワー・ユーザー用の Thin ユーザー・インタフェースです。パワー・ユーザーは、Active Studio を使用してレポートを作成および編集できます。レポートは他のユーザーと共有可能であり、ルールを作成してレポートのスケジュールおよび配信を指定できます。レポート・タイプには、グラフ、リスト、KPI、クロス集計、スプレッドシートなどがあります。

**Architect:** データ設計者用の Thin ユーザー・インタフェースです。データ設計者は、Architect を使用して、Active Data Cache でのデータ・オブジェクトの作成と管理、およびリアルタイム・メッセージ処理の管理を行うことができます。

**Administrator:** ユーザーの管理およびサーバー全体の管理を行うシステム管理者用の Thin ユーザー・インタフェースです。システム管理者は、Administrator を使用して、ユーザーおよびセキュリティ・レベルの管理、Active Data Cache へのロードの監視、および Oracle Business Activity Monitoring サービスの構成を行います。



---

## サービスの実行

この章では、Oracle Business Activity Monitoring サービスの実行方法について説明します。  
内容は次のとおりです。

- サービスの概要
- サービスの起動および停止

## サービスの概要

Oracle Business Activity Monitoring アプリケーションにアクセスする前に、次のサービスを起動する必要があります。サービスを起動する前に、Enterprise Link リポジトリを実行するデータベース・サービスを起動しておく必要があります。

一部のサービスは、他のサービスに依存しています。サービスは、次に示す順序で起動する必要があります。

1. TNS リスナー
2. Oracle Database Service
3. Oracle BAM Data Flow Service
4. Oracle BAM Active Data Cache Service
5. Oracle BAM Report Cache Service
6. Oracle BAM Event Engine Service
7. Oracle BAM Plan Monitor Service

## サービスの起動および停止

この項では、Oracle Business Activity Monitoring サービスの起動方法および停止方法について説明します。

サービスは、次の3つの方法のいずれかを使用して起動および停止できます。

- Microsoft Windows の「スタート」メニューにあるアイコンを使用します。詳細は、2-3 ページの「[スタート・メニュー・アイコンを使用したサービスの起動および停止](#)」を参照してください。
- コマンドライン・インタフェースを使用します。詳細は、2-3 ページの「[コマンドライン・インタフェースを使用したサービスの起動および停止](#)」を参照してください。
- Microsoft Windows の管理ツールにある「サービス」パネルを使用して、サービスを個別に起動および停止します。

### スタート・メニュー・アイコンを使用したサービスの起動および停止

スタート・メニュー・アイコンを使用すると、サービスが適切な順序で起動されます。

サービスを起動するには、次の手順を実行します。

1. 「スタート」→「すべてのプログラム」→「Oracle BAM」→「Start Oracle BAM」をクリックします。

コマンド・ウィンドウが開き、各サービスの起動にあわせて進捗状況が表示されます。

2. すべてのサービスが起動したら、キーを押してコマンド・ウィンドウを閉じます。

サービスを停止するには、次の手順を実行します。

1. 「スタート」→「すべてのプログラム」→「Oracle BAM」→「Stop Oracle BAM」をクリックします。

コマンド・ウィンドウが開き、サービスの停止を続行するように求められます。

2. Y と入力し、[Enter] キーを押します。

コマンド・ウィンドウに、実行中の各サービスの停止にあわせて進捗状況が表示されます。

3. すべてのサービスが停止したら、キーを押してコマンド・ウィンドウを閉じます。



## コマンドライン・インタフェースを使用したサービスの起動および停止

startOracleBAM.bat および stopOracleBAM.bat ファイルを使用すると、サービスが適切な順序で起動されます。

サービスを起動するには、次の手順を実行します。

1. コマンドライン・ウィンドウを開き、次のディレクトリに移動します。

```
C:¥OracleBAM¥BAM
```

2. startOracleBAM と入力し、[Enter] キーを押します。

コマンド・ウィンドウが開き、各サービスの起動にあわせて進捗状況が表示されます。

3. すべてのサービスが起動したら、キーを押して startOracleBAM コマンドを終了します。

サービスを停止するには、次の手順を実行します。

1. コマンドライン・ウィンドウを開き、次のディレクトリに移動します。

```
C:¥OracleBAM¥BAM
```

2. stopOracleBAM と入力し、[Enter] キーを押します。

サービスの停止を確認するプロンプトが表示されます。

3. Y と入力し、[Enter] キーを押します。

コマンド・ウィンドウに、各サービスの停止にあわせて進捗状況が表示されます。

4. すべてのサービスが停止したら、キーを押して stopOracleBAM コマンドを終了します。



---

## ユーザー・アカウントの管理

この章では、ユーザー・アカウントの管理と、レポートおよびアラートの所有権の割当てについて説明します。

内容は次のとおりです。

- [ユーザー・アカウントの作成](#)
- [ユーザー・アカウントの編集](#)
- [オブジェクトの所有権の再割当て](#)

## ユーザー・アカウントの作成

Oracle Business Activity Monitoring のユーザー・アカウントは、「Login Management」ページで手動で作成する必要があります。ほとんどのユーザー・アカウントは、付与されているロールに基づいて、Web アプリケーションへのアクセス時に自動的に追加されます。

現在有効な Windows ログインではないログイン名で作成されたユーザー・アカウントは、有効ではないことを示す感嘆符付きで「Login management」リストに表示されます。これらのユーザーには、Oracle Business Activity Monitoring アプリケーションに対するアクセス権はありません。これは、ドメイン認証がサーバーからアクセスできないことが原因である可能性があります。そうでない場合は、これらのユーザー・アカウントを編集または削除する必要があります。

---

---

**警告：** ユーザー・アカウントは大/小文字が区別されるため、ドメイン・サーバーのアカウントと大/小文字が正確に一致する必要があります。

---

---

ユーザー・アカウントを作成するには、次の手順を実行します。

1. リストから「Login Management」を選択します。
2. 「Create」をクリックします。
3. 表示されたフィールドに次の情報を入力します。
  - **Login Name:** DOMAIN/username の形式を使用したユーザー名です。
  - **Full Name:** ユーザーのフルネームです。アラートを適切に動作させるために、ユーザーには姓と名の両方が必要です。
  - **Email Account:** 完全な電子メール・アドレスです。例: john.doe@domain.com
  - **Preferred Delivery Order:** 電子メールのユーザー優先配信順序を指定します。構文は、SMTP IIM です。ここで、SMTP は電子メール・アカウント、IIM は Active Messenger です。Active Messenger は非推奨の機能であるため、2 番目にリストする必要があります。
4. 「Create」をクリックします。

## ユーザー・アカウントの編集

ユーザー・アカウントの値を編集できます。各フィールドで使用する構文の詳細は、3-2 ページの「[ユーザー・アカウントの作成](#)」を参照してください。

ユーザー・アカウントを編集するには、次の手順を実行します。

1. リストから「Login Management」を選択します。
2. リストからユーザー・アカウントを選択します。
3. 「Edit」をクリックします。
4. 表示されたフィールドの値を編集します。
5. 「Save」をクリックします。

## オブジェクトの所有権の再割当て

特定のユーザーが所有しているオブジェクト（レポート、アラートなど）は、別のユーザーに割り当てることができます。ユーザーを変更または削除する前に、それらのユーザーが所有しているレポートおよびアラートを他のユーザーに割り当てる必要がある場合があります。次の操作によって、特定のユーザーに関連付けられているすべてのオブジェクトが別のユーザーに割り当てられます。

オブジェクトの所有権の再割当てを行うには、次の手順を実行します。

1. リストから「**Login Management**」を選択します。
2. 再割当てを行うオブジェクトを現在所有しているユーザーをリストから選択します。
3. 「**Reassign Ownership**」をクリックします。  
「**Select Names**」ダイアログ・ボックスにユーザーのリストが表示されます。
4. オブジェクトの所有者にするユーザー・アカウントをリストから選択します。
5. 「**OK**」をクリックします。

レポートは、そのユーザー名に基づく名前のサブフォルダに移動されます。

アラートは移動され、元の名前のアラートがすでに存在している場合は、名前に0（ゼロ）が追加されます。アラートのアイテムを更新または指定する必要がある場合は、アラート・アイコンに感嘆符が表示されます。

所有者は、共有のレポートおよびフォルダ用に変更されます。



---

## ロールの管理

この章では、ロールの概念およびロールの作成方法について説明します。

内容は次のとおりです。

- [ロールの理解](#)
- [ロールの作成](#)
- [ロールの変更](#)

## ロールの理解

ロールは、特定の権限の集合を持つユーザーの論理グループです。ユーザーには、カスタム・ロールを作成できます。ドメインに定義されているグループ名で、ユーザーをロールに追加できます。ユーザーのグループをロールに追加して、ユーザー・アクセスのレベルを定義します。また、個々のユーザーをロールに追加することもできます。

Administrator に含まれているデフォルトのロールには、次のものがあります。

表 4-1 デフォルトのロールの説明

ロール	説明
Administrator	すべての機能にアクセスできます。このロールは削除できません。管理者ロールの権限は、選択されてグレースアウトされているため、変更できません。
Report Architect	データ・オブジェクトおよびレポートを作成するための機能にアクセスできます。
Report Creator	レポートを作成するための機能にアクセスできます。
Report Viewer	レポートを表示するための機能にアクセスできます。

## ロールの作成

ロールを作成するには、次の手順を実行します。

- Administrator の機能リストから「**Role management**」を選択します。
- 「**Create a new role**」をクリックします。  
右側のフレームにロール情報ページが表示されます。
- ロール名および説明を入力します。
- 次のアイテムのチェック・ボックスを選択して、このロールに含めるアクションを選択します。  
**Create Data Object: Architect** でデータ・オブジェクトを作成できます。  
**Active Viewer: Active Viewer** を使用できます。  
**Active Studio: Active Studio** を使用できます。  
**Architect: Architect** を使用できます。  
**Administrator: Administrator** を使用できます。  
**Create Report: Active Studio** でレポートを作成できます。  
**Create Alert Rule: Active Studio** または **Architect** でアラートを作成できます。  
**Email Rendered Report: レンダリングされた（静的）レポート・ページを Active Studio から電子メールで送信** できます。
- 「**Add User**」または「**Add Group**」を選択して、ユーザーまたはグループをロールに追加します。
- DOMAIN%groupname の形式を使用して、このロールを割り当てるドメイン・ユーザーまたはグループの名前を入力します。
- 複数のユーザーまたはグループをロールに追加する場合は、「**Add User**」または「**Add Group**」を選択します。「**Remove**」をクリックしてグループ・フィールドを削除することはできませんが、リストに空のフィールドを残しておくことはできません。
- 「**Create**」をクリックします。



## ロールの変更

作成したロールおよびデフォルトのロールを変更できます。ロールに含まれている権限を変更できます。また、ロールに割り当てられているユーザーまたはユーザー・グループを変更できます。

ロールを変更するには、次の手順を実行します。

1. リストから「**Role management**」を選択します。
2. リストからロールを選択します。  
右側のフレームにロール情報が表示されます。
3. 名前、実行可能なアクションおよび含まれているユーザーまたはグループの変更など、ロールに対する変更を行います。
4. 「**Save**」をクリックします。
5. Oracle Business Activity Monitoring サービスを再起動して、すぐに変更を有効にします。  
Oracle Business Activity Monitoring サービスを再起動しない場合、ロールへの変更は、保存後 20 分有効になります。



---

## Message Center の構成

この章では、Message Center の概要および設定の構成方法について説明します。  
内容は次のとおりです。

- [Message Center の概要](#)
- [Message Center の構成](#)

## Message Center の概要

Message Center では、ユーザーにアラートおよび電子メールを送信する場合に使用するアカウントを指定します。これらのアカウントは、Oracle Business Activity Monitoring の初期インストール時および構成時に指定されます。

Message Center の現行の設定を表示するには、ドロップダウン・リストから「Message Center Management」を選択します。

表 5-1 に、「Message Center Management」画面に表示される Collaboration Service の設定の説明を示します。

**表 5-1 Collaboration Server の設定**

設定	説明
Server Name	Collaboration Service が実行されるマシン名または IP アドレス。 Localhost がデフォルト設定です。
Server Port	Collaboration Service のポート番号。12345 がデフォルト設定です。

表 5-2 に、「Message Center Management」画面に表示される SMTP サービスの設定の説明を示します。

**表 5-2 SMTP サーバーの設定**

設定	説明
Server Name	メール・サーバーのマシン名または IP アドレス。
Email Account for Alerting	アラートを送信するメール・サーバー上の電子メール・アカウント。

## Message Center の構成

Message Center は、電子メール・アラートおよびインスタント・メッセージ・アカウントを送信してインスタント・メッセージを送信する場合、ドメイン内のユーザー・アカウントにアクセスします。コラボレーションおよびアラートを有効にするには、Message Center と関連アカウントを構成する必要があります。

Message Center の設定を構成するには、次の手順を実行します。

1. ドロップダウン・リストから「**Message Center Management**」を選択します。  
Oracle Business Activity Monitoring アプリケーションをはじめてインストールするときは、表のいくつかのセルが空白になっています。
2. 「**Edit**」をクリックします。
3. メール・サーバーのマシン名または IP アドレスを「**SMTP Server Name**」フィールドに入力します。メール・サーバーには、Active Viewer ユーザーがそれぞれの個人設定で指定する他の SMTP サーバーに電子メールを送信する機能が必要です。
4. Oracle BAM サービスが使用するドメインを含めて電子メール・アカウントを「**Email Account for Alerting**」フィールドに入力します。このアカウントは、電子メール・アラートの送信者を示すヘッダーに表示されます。
5. 「**Save**」をクリックして、変更を保存します。
6. Oracle BAM Event Service を再起動して、変更を有効にします。

# 6

---

## 配信リストの管理

この章では、配信リストの管理方法について説明します。

内容は次のとおりです。

- [配信リストの作成](#)
- [配信リストの編集](#)
- [配信リストの削除](#)

## 配信リストの作成

配信リストは、多数のユーザーをレポートおよびアラート・レベルで個々に指定するかわりに、レポートまたはアラートをユーザーのグループに送信する場合に使用します。

配信リストを作成するには、次の手順を実行します。

1. ドロップダウン・リストから「**Distribution List management**」を選択します。
2. 「**Create**」をクリックします。
3. 一意の**配信リスト名**を入力し、「**Create**」をクリックします。
4. リストに表示される新しい配信リストを選択します。
5. 「**Edit**」をクリックします。
6. 「**Select Members**」リストから、配信リストに追加するユーザー・アカウントを選択します。
7. 「**Save**」をクリックします。

配信リストにユーザーが追加されます。

## 配信リストの編集

配信リストを編集して、その名前の変更およびユーザーの追加と削除を行うことができます。

配信リストを編集するには、次の手順を実行します。

1. リストから「**Distribution List management**」を選択します。
2. 「**Edit**」をクリックします。
3. ユーザーを選択または選択解除して、配信リストに変更を行います。また、リスト名も編集できます。
4. 「**Save**」をクリックします。

## 配信リストの削除

配信リストを削除できます。ただし、削除した配信リストをアラート・ルールで指定すると、アラート・ルールが無効になる場合があります。

配信リストを削除するには、次の手順を実行します。

1. ドロップダウン・リストから「**Distribution List management**」を選択します。
2. リスト内の配信リスト名を選択します。  
右側のフレームに配信リスト情報が表示されます。
3. 「**Delete**」をクリックします。
4. 「**OK**」をクリックして、配信リストを削除することを確認します。

---

## エンタープライズ・メッセージ・ ソース・タイプの管理

この章では、エンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプの管理方法について説明します。  
内容は次のとおりです。

- [エンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプの作成](#)
- [エンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプの編集](#)
- [エンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプの削除](#)

## エンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプの作成

---

**注意：** この機能は、Oracle Professional Services でのみ使用されます。エンタープライズ・メッセージ・ソースを定義するには、Architect アプリケーションを使用します。

---

すでに提供されているエンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプに、他のエンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプを追加できます。Java Message Service (JMS) を使用するすべてのメッセージ・タイプがサポートされています。ほとんどの場合、このページを使用する必要も、新しいエンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプを追加する必要もありません。エンタープライズ・メッセージ・ソースは、Administrator に定義されているタイプに基づいて、Architect で作成および指定されます。

カスタム・エンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプを作成するには、次の手順を実行します。

1. ドロップダウン・リストから、「**Manage Enterprise Message Source Types**」を選択します。
2. 「**Create**」をクリックします。
3. 次の情報を入力します。
  - 表示名
  - ID
  - 管理者実装の CLSID
  - 受信者実装の CLSID
  - 起動パラメータ
4. 「**Create**」をクリックします。

## エンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプの編集

エンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプの「Startup parameters」フィールドのクラス・パスを編集する場合は、Java JVM が再起動されていることを確認する必要があります。再起動されていない場合、変更は検出されません。これを行うには、すべての Oracle Business Activity Monitoring サービスを再起動します。これは、MSMQ およびファイル・システム・エンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプには適用されません。

既存のエンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプを編集するには、次の手順を実行します。

1. リストから「**Manage Enterprise Message Source Types**」を選択します。
2. リストからエンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプを選択します。  
右側のフレームにメッセージ・ソース・タイプ情報が表示されます。
3. 「**Edit**」をクリックします。
4. 情報を変更します。
5. 「**Update**」をクリックします。



## エンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプの削除

カスタム・エンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプを作成した場合は、それを削除することもできます。

---

**注意：** Oracle Business Activity Monitoring で提供されているメッセージ・ソース・タイプは削除しないでください。

---

エンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプを削除するには、次の手順を実行します。

1. リストから「**Manage Enterprise Message Source Types**」を選択します。
2. リスト内のエンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプをクリックします。  
右側のフレームにメッセージ・ソース・タイプ情報が表示されます。
3. 「**Delete**」をクリックします。



---

## 外部データ・ソース・タイプの管理

この章では、外部データ・ソース・タイプの管理方法について説明します。

内容は次のとおりです。

- 外部データ・ソース・タイプの作成
- 外部データ・ソース・タイプの編集
- 外部データ・ソース・タイプの削除

## 外部データ・ソース・タイプの作成

---

---

**注意：** この機能は、Oracle Professional Services でのみ使用されます。外部データ・ソースを定義するには、Architect アプリケーションを使用します。

---

---

すでに提供されている外部データ・ソース・タイプに、他の外部データ・ソース・タイプを追加できます。ほとんどの場合、このページを使用する必要も、新しい外部データ・ソース・タイプを追加する必要もありません。外部データ・ソースは、Administrator に定義されているタイプに基づいて、Architect で作成および指定されます。

カスタム外部データ・ソース・タイプを作成するには、次の手順を実行します。

1. リストから「**Manage External Data Source Types**」を選択します。
2. 「**Create**」をクリックします。
3. 次の情報を入力します。
  - **名前：**一意の名前
  - **ID：**システムによって生成される
  - **管理ウィンドウのアセンブリ情報**
  - **データ取得ウィンドウのアセンブリ情報**
  - **管理 Java クラスの情報**
  - **データ取得 Java クラスの情報**
4. 「**Create**」をクリックします。

## 外部データ・ソース・タイプの編集

既存の外部データ・ソース・タイプを編集するには、次の手順を実行します。

1. リストから「**Manage External Data Source Types**」を選択します。
2. リスト内の外部データ・ソース・タイプをクリックします。  
右側のフレームにデータ・ソース・タイプの情報が表示されます。
3. 「**Edit**」をクリックします。
4. 情報を変更します。
5. 「**Update**」をクリックします。

## 外部データ・ソース・タイプの削除

カスタム外部データ・ソース・タイプを作成した場合は、それを削除することもできます。

---

---

**注意：** Oracle Business Activity Monitoring で提供されているメッセージ・ソース・タイプは削除しないでください。

---

---

外部データ・ソース・タイプを削除するには、次の手順を実行します。

1. リストから「**Manage External Data Source Types**」を選択します。
2. リスト内の外部データ・ソース・タイプをクリックします。  
右側のフレームにデータ・ソース・タイプの情報が表示されます。
3. 「**Delete**」をクリックします。

---

## プラン・モニターの管理

この章では、プラン・モニターの追跡に使用できるツールについて説明します。  
内容は次のとおりです。

- プラン・モニターの概要
- Plan Monitor Service のステータスの表示
- 監視対象プランのステータスの表示
- プランの設定の変更
- Data Flow Service のステータスの表示
- 実行中のプランの停止
- プランの設定確認のリクエスト
- プラン・モニター・ジャーナルの表示
- プラン・モニター用のアラートの作成

## プラン・モニターの概要

プラン・モニターを使用すると、Design Studio で作成したプランを監視できます。Administrator から、監視対象プランの表示、監視対象プランを実行する Data Flow Service に関する情報の表示、および実行中のプランの停止を実行できます。

また、Plan Monitor Service のステータスも表示できます。これには、Plan Monitor Service で監視されているプランの数および現在実行されている監視対象プランの数が表示されます。この情報は、Plan Monitor Service Status と呼ばれるシステム・データ・オブジェクトに保存されます。

大量のプランを実行する実装に対し、複数のプラン・モニターをインストールできます。詳細は、『Oracle Business Activity Monitoring インストレーション・ガイド』を参照してください。

Plan Monitor Service を実行する前に、次のサービスを起動する必要があります。

- Oracle BAM Data Flow Service
- Oracle BAM Active Data Cache
- Enterprise Link リポジトリが含まれているデータベース・サービス

Data Flow Service を起動または再起動する場合は、「コントロールパネル」→「サービス」に移動して Oracle BAM Plan Monitor Service を再起動する必要があります。

## Plan Monitor Service のステータスの表示

プラン・モニターのステータスを表示するには、次の手順を実行します。

1. リストから「Plan Monitor」を選択します。
2. 表 9-1 に示すプラン・モニターのステータス情報を表示できます。
3. 「Refresh status display」をクリックして、変更が行われた後の表示を更新します。

**表 9-1 プラン・モニターのステータス情報**

アイテム	説明
Time of last status change	プラン・モニターのステータスが変更された時間。
Status	プラン・モニターのステータスは、「Starting」、「Stopping」、「Sleeping」、「Working」および「Stopped」のいずれかになります。
Message	監視対象プランの数および実行されている監視対象プランの数が表示されます。

## 監視対象プランのステータスの表示

監視対象プランのステータスを表示できます。この情報は、Plan Monitor Plan Status と呼ばれるシステム・データ・オブジェクトに保存されます。

プランのステータスを表示するには、次の手順を実行します。

1. リストから「Plan Monitor」を選択します。

2. 「Status of monitored Plans」をクリックします。

「Plan Status」ウィンドウが開きます。表 9-2 に、この画面に表示されるプランのステータス情報の説明を示します。

表 9-2 プランのステータス

アイテム	説明
Last status change	最後にステータスが変更された時間
Plan name	プラン名
Current Status	プランの最新の監視結果（「New」、「Running」、「StartFailed」、「RestartFailed」、「Failed」、「Completed」、「AwaitingRestart」、「StopRequested」、「StopFailed」など）
DFS Request ID	プランの現在の実行状況を識別します。実行中のプランを停止するには、「Data Flow Service Status」ページでこの番号を使用します。
Restarts after completion	完了後に、プラン・モニターによってプランが再起動された回数。
Restarts after failure	障害発生後に、プラン・モニターによってプランが再起動された回数。
Message	最新のイベントに関連したステータス・メッセージまたはエラー・メッセージが表示されます。

## プランの設定の変更

「Plan settings」ウィンドウで監視するプランを選択できます。特定のプランに対してプランの監視を有効にした後で、プランが完了した後またはプランで障害が発生した後に実行するアクションなどの他のオプションを選択できます。

特定のプランに対してプランの監視を有効にするには、次の手順を実行します。

1. リストから「Plan Monitor」を選択します。
2. 「Plan settings」をクリックします。  
「Plan Settings」ウィンドウが表示されます。
3. プラン名の横にある「Mon」チェック・ボックスを選択してプランの監視を有効にします。
4. 「Completion Action」列で、「Always restart on completion」、「Do not restart on completion」、「Limit restart on completion to X times, maximum」などのアクションを選択します。
5. 「Failure Action」列で、「Always restart on failure」、「Do not restart on failure」、「Limit restart on failure to X times, maximum」などのアクションを選択します。
6. 「Max Restart Frequency」列で、「No limit on frequency」または「Limit frequency to no more than once every X minutes」のいずれかを選択します。

この設定がプランの実行頻度を制御することはありません。プラン・モニター・レベルで、これを実行する方法はありません。ユーザーは、Data Flow Service がプランの実行に必要なとする時間（プランの構造、Data Flow Service のリソース使用状況などに基づく）を予測できないためです。ただし、Architect または Active Studio でアラートを作成し、プランを x 分ごとに実行することはできます。これによって、プランの新しいインスタンスが起動します。このため、インスタンスの実行時間がインスタンスのアラート・トリガー時間より長い場合に、実行中のプランのインスタンスが複数存在する可能性があります。

7. 「Monitor Service」列で、このプランで使用する Plan Monitor Service の名前を選択します。これは、プラン・モニターが複数存在する場合に役立ちます。
8. 「Save Changes」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

## Data Flow Service のステータスの表示

Data Flow Service のステータスおよび接続情報を表示できます。Administrator から Data Flow Service の構成を編集することはできません。

Data Flow Service のステータスを表示するには、次の手順を実行します。

1. リストから「**Plan Monitor**」を選択します。
2. 「**Data Flow Service status**」を選択します。  
「Data Flow Service Status」ウィンドウが表示されます。

**表 9-3 Data Flow Service のステータス情報**

アイテム	説明
Client Sessions	接続しているユーザー（Plan Monitor Service を含む）。
Executions	手動で過去に実行されたか、または現在実行されている監視対象プランが表示されます。
Cached Result	各エントリに、実行されたプラン、プラン ID およびプラン実行中のステータスが表示されます。

## 実行中のプランの停止

実行中のプランを停止できます。停止するプランをそのリクエスト ID で指定する必要があります。プランを最近実行した場合は、「Data Flow Service status」ウィンドウ、「Plan Monitor Journal」ウィンドウまたは「Status of Monitored Plans」ウィンドウで情報を表示してリクエスト ID を検索します。

実行中のプランを停止するには、次の手順を実行します。

1. リストから「**Plan Monitor**」を選択します。
2. 「**Data Flow Service status**」をクリックします。
3. 「**Request that a running Plan be stopped**」をクリックします。  
ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. プランのリクエスト ID を入力し、「**OK**」をクリックします。たとえば、中カッコを含めて {E57092EB-0799-4A2C-A321-AC20A7BA2DC0} と入力します。

停止がリクエストされたことを示すメッセージが、「Data Flow Service status」ウィンドウに表示されます。プランが停止したことを確認するには、「Data Flow Service Status」ウィンドウを確認します。監視対象プランの場合は、プラン・モニター・ジャーナルまたは監視対象プランのステータスを表示することもできます。

## プランの設定確認のリクエスト

プランの設定確認をリクエストして新しい設定を確認できます。システムにおけるプランの量によっては、プランの設定確認に数分かかる場合があります。

プランの設定確認をリクエストするには、次の手順を実行します。

1. リストから「**Plan Monitor**」を選択します。
2. 「**Request Plan settings check**」をクリックします。  
確認ウィンドウが表示されます。
3. 「**Close**」をクリックしてウィンドウを閉じます。



## プラン・モニター・ジャーナルの表示

プラン・モニター・ジャーナルを開いて、実行された日時、および障害が発生したか、エラーなしで完了したかなどのプランのサマリー情報を表示できます。プランで障害が発生した場合は、プラン・モニター・ジャーナルにエラー・テキストが表示されます。また、プラン・モニター・ジャーナルには、Plan Monitor Service のステータス（「starting」、「stopping」、「errors」など）の変更も記録されます。この情報は、プラン・モニター・ジャーナルと呼ばれるシステム・データ・オブジェクトに保存されます。

プラン・モニター・ジャーナルを表示するには、次の手順を実行します。

1. リストから「Plan Monitor」を選択します。
2. 「Plan Monitor Journal」を選択します。

「Plan Monitor Journal」ウィンドウが表示されます。表 9-4 に、プラン・モニター・ジャーナルに表示される情報の説明を示します。

表 9-4 プラン・モニター・ジャーナルの情報

アイテム	説明
Event Time	イベントが発生した時間。
Event Code	イベント・タイプを示すコード（「Normal」、「Error」、「PlanStartFailed」、「PlanRestartFailed」、「PlanStarted」、「PlanRestarted」、「PlanFailed」、「PlanCompleted」、「PlanRestartMax」、「PlanStopFailed」、「PlanStopRequested」など）。
Event Text	ステータス・メッセージまたはエラー・メッセージの情報。

## プラン・モニター用のアラートの作成

システム・データ・オブジェクトに対してプラン・モニター用のアラートを作成できます。これによって、プランまたは Plan Monitor Service の障害がすぐに通知され、迅速に対処できるようになるため、非常に役立ちます。これは、プランが常に動作している必要があるリアルタイム・プランの場合に非常に有効です。管理者が Administrator のプラン・モニターのステータスを定期的を確認する場合を除き、これ以外に、これらの発生を把握する方法はありません。アラートの構成の詳細は、『Oracle Business Activity Monitoring Architect ユーザーズ・ガイド』または『Oracle Business Activity Monitoring Active Studio ユーザーズ・ガイド』を参照してください。



---

---

# 用語集

## Active Data Cache (ADC)

リアルタイム・ソリューションで大量のデータを処理できるように設計および最適化されている。データをそのままアクセス可能または配信可能にするために、メモリーにデータの永続性が維持される。Active Data Cache へのデータ・フィードは、ビジネス・データ・ソース（データ・ウェアハウス情報、トランザクション・フィードなど）とその他のエンタープライズ・ソースが組み合わされたものである。

## Active Studio

パワー・ユーザー用の Thin ユーザー・インタフェース。パワー・ユーザーは、Active Studio を使用してレポートを作成および編集できる。レポートは他のユーザーと共有可能であり、ルールを作成してレポートのスケジュールおよび配信を指定できる。レポート・タイプには、コラム・レポート、クロス集計、KPI、グラフ、スプレッドシートなどがある。

## Active Viewer

ビジネス・ユーザー用の Thin ユーザー・インタフェース。ユーザーは、新しい情報が使用可能になると、その情報へのリンクが含まれているインスタント・メッセージを受信する。ユーザーは、このリンクを介して Active Viewer をオープンし、レポートを表示する。Pro バージョンには、ペン・アノテーションを使用した動的なグループ・コラボレーションが含まれる。

## Administrator

ユーザーの管理およびサーバー全体の管理を行うシステム管理者用の Thin ユーザー・インタフェース。システム管理者は、Administrator を使用して、ユーザーおよびセキュリティ・レベルの管理、Active Data Cache へのロードの監視、および Oracle Business Activity Monitoring サービスの構成を行う。

## Architect

データ設計者用の Thin ユーザー・インタフェース。データ設計者は、Architect を使用して、Active Data Cache でのデータ・オブジェクトの作成と管理、およびリアルタイム・メッセージ処理の管理を行うことができる。

## Data Flow Service

プランを実行し、データ・ソースからプラン情報を取得する。

## Enterprise Link

Oracle Business Activity Monitoring をデータベース・サーバー、フラット・ファイル、XML ソースなどの他の情報ソースに接続する。Enterprise Link は、ミドルウェア・アプリケーションと統合してエンタープライズ・アプリケーションのメッセージ・キューへの接続を作成することによって、重要なメッセージの解読および不要な情報のフィルタを行う。

## 「Home」タブ (Home tab)

最近のレポートおよび新しいレポートを Active Studio で表示するための開始点。

## KPI

グラフィカルなキー・パフォーマンス・インジケータ。たとえば、銘柄記号における値が上向きか、下向きかを示す矢印など。

## Message Center

レポートおよびアラートが確実に受信されるように、ユーザーの存在を追跡する。メッセージおよびレポートは、電子メールを使用して配信される。

## 「My Reports」タブ (My Reports tab)

Active Studio の「My Reports」タブでは、作成し、所有しているレポートを表示および編集できる。

## 「Shared Reports」タブ (Shared Reports tab)

Active Studio の「Shared Reports」タブでは、他のユーザーが共有化しているレポートを表示できる。これらのレポートを表示するアクセス権は付与されているが、作成および削除する権限は付与されていないため、通常は、これらを編集および削除できない。

## Transform

プランの基本的な要素。それぞれの Transform は、専門の操作を実行し、ソース、データ操作、データ・フロー制御またはシンク Transform として機能する。

## アクション (action)

レポート、フォルダおよびアラートで実行できるすべての操作が含まれる。アクションの例としては、レポートおよびアラートの作成、表示、編集などがある。

## アラート (alert)

アラートは、インスタント・メッセージ・テクノロジーによって、ルールおよびリアルタイムで発生したイベントに基づいて配信される。アラートは、Active Studio および Architect で作成できる。

## エンタープライズ・メッセージ・ソース (enterprise message source)

エンタープライズを介して ADC に送られるリアルタイム情報のプロバイダ。各エンタープライズ・メッセージ・ソースは特定のメッセージ・キューに接続され、ADC のデータ・オブジェクトに情報が配信される。

## クロス集計 (crosstab)

クロス集計ビューは、行と列を組み合せ、値を多次元ビューで表示するスプレッドシート形式である。クロス集計では、加算される列または行に応じて、縦方向および横方向に集計される。クロス集計に追加できる集計関数には、sum、average、count、minimum (min)、maximum (max) などがある。

## データ・オブジェクト (data object)

レポートの各ビューに表示する情報セットが含まれている。データ・オブジェクトは、Architect によって作成され、Active Data Cache に保持される。

## データ・フロー (data flow)

プランの手順をグラフィカルに表示したもので、データ・フロー・エディタに表示される。完全なデータ・フローには、1 つ以上のデータソースと、1 つ以上のシンクが含まれる。

## 配信リスト (distribution list)

ユーザーの配信リストを作成できるのは、システム管理者である。レポートまたはアラートをユーザーのグループに送信するために使用される。

### **ビュー (view)**

レポートには、単一のビューまたは複数のタイル表示ビューを含めることができる。ビュー・タイプには、リスト、コラム・レポート、グラフ、キー・パフォーマンス・インジケータ (KPI)、クロス集計、スプレッドシートなどがある。

### **フォルダ権限 (folder permissions)**

フォルダレベルの権限を割り当てることで、レポート設計者は、フォルダに含まれるレポートを他の Active Studio ユーザーと共有する方法を選択できる。フォルダ権限には、表示、作成および削除がある。

### **プラン (Plan)**

Enterprise Link Design Studio を介して強力なデータ・フローを作成するために相互にリンクする、Transform と呼ばれる手順が含まれている。プランには、データソースの特定、データ操作および ADC へのデータのロードに関する説明が含まれる。

### **ユーザー (user)**

Oracle Business Activity Monitoring アプリケーションおよびアイテムへのアクセス権を所有するログイン・アカウント。ユーザーの管理は、Administrator を使用して行われる。

### **レポート (report)**

リアルタイムの情報またはある時点における情報を複数のビュー (リスト、コラム・レポート、グラフ、キー・パフォーマンス・インジケータ (KPI)、クロス集計、スプレッドシートなど) に表示する。レポート設計者は、書式設定およびデータ修飾子 (フィルタ、ソート、計算、グループ、サマリーなど) を追加できる。

### **ロール (role)**

Administrator を介してドメイン・グループに割り当てることができる権限の集合。システム管理者は、ユーザーのグループをロールに追加して、Oracle Business Activity Monitoring アプリケーションおよびアイテムにアクセスするユーザーのレベルを定義する。



---

---

# 索引

## A

---

Active Data Cache, 1-3  
Active Studio, 1-3  
Active Viewer, 1-3  
Administrator, 1-3  
    起動, 1-2  
Architect, 1-3

## C

---

Collaboration Service の設定, 5-2

## D

---

Data Flow Service, 9-2, 9-4

## E

---

Enterprise Link, 1-3  
Event Engine, 1-3

## J

---

Java Message Service, 7-2  
JMS, 7-2

## M

---

Message Center  
    構成, 5-2

## O

---

Oracle BAM サービス  
    起動, 2-2

## P

---

Plan Monitor Service, 9-2

## R

---

Reports Engine, 1-3

## あ

---

アクティブ・データ・アーキテクチャ, 1-2  
アラート, 1-2  
アラート, ユーザーへの割当て, 3-3

## え

---

エンタープライズ・メッセージ・ソース・タイプ, 7-1

## か

---

外部データ・ソース・タイプ, 8-1

## さ

---

サービス  
    起動, 2-2  
サービス, プラン・モニター, 9-1

## そ

---

ソース・タイプ, メッセージ, 7-1

## て

---

データ・ソース・タイプ, ソース・タイプ, 外部データ, 8-1

## は

---

配信リスト, 作成, 6-1

## ふ

---

プランの監視, 9-1  
プランの設定, 確認, 9-4  
プランの設定, 変更, 9-3  
プラン・モニター, 9-1  
プラン・モニター・ジャーナル, 9-5  
プラン, 監視, 9-2  
プラン, 停止, 9-4

## め

---

メーリング・リスト, 作成, 6-1  
メッセージ・ソース・タイプ, 7-1

## ゆ

---

ユーザー, 作成, 3-1  
ユーザー, 無効, 3-2

## れ

---

レポート, ユーザーへの割当て, 3-3

## ろ

---

ロール  
作成, 4-2  
変更, 4-3  
ロールの管理, 4-2  
ロールの作成, 4-2